

中国語の“V有(you)”構文に関する一考察
—日本語のシテアル構文に照らして—

黄 利斌・丁 尚虎・上原 聡
東北大学大学院国際文化研究科
huanglibin@hotmail.com

1. はじめに

中国語では、存在構文として“V着(zhe)”構文、“V了(le)”構文の他に、“V有(you)”構文も多用されている。これまで、“V着”構文と“V了”構文について、アスペクトの観点から日本語のシテアル構文との日中対照研究が多く行われてきたが(鄭 2011 など)、“V有”構文に関する対照研究は極めて少ない。『中日対訳コーパス』などを調べてみると、日本語のシテアル構文に対して、“V着”構文、“V了”構文の他に“V有”構文に訳される場合もあることが分かった。例えば、例文(1b)において、“動詞+有(ある)”からなる“V有”によって対象の存在の様態が描かれている。

- (1)a. 窓際に机と椅子が置いてある。(あした来る人)
- b. 窗边 安有桌椅。(情系明天)
- 窓際 置く ある 机と椅子

“V有”をアスペクト形式として認めるかどうかの本格的な議論は最近になって始まったと言えるが、まだ決着がつかない。“V有”は日本語のシテアルと同様に、動詞Vの直後に存在・所有動詞を付け加えたものである。本稿では、シテアル構文と対照しながら、存在論的観点から中国語の“V有”構文を考察するものである。

2. 先行研究

孫(1996)は、従来の中国語の存在構文における“有”構文/“是”構文と“V着”構文/“V了”構文という二分法の他に、“V有”構文も存在すると指摘したうえで、“V”が本動詞の機能を示し、“有”が助詞の機能を示し、“V着”構文/“V了”構文と比べて、“V有”構文に使われる動詞の種類は制限されていると述べている。

石(2004)では、通時的な観点から“有”が分析され、“有”のアスペクト的用法が論じられている。それに対し、羅・范(2006:93)では、“有”が「准表体助詞(準アスペクト助詞)」と指摘されている。これらの研究においては、“有”がアスペクト助詞であるか否かをめぐりまだ議論がなされている。また、“V有”構文が表す意味領域の全般についてあまり詳しい記述はない。それ以上の体系的説明は行われていない。

一方、岡(2013)は存在論的観点からシテイル構文/シテアル構文が中心的存在構文からの拡張として、以

下の意味用法をもつと主張している(図1)。

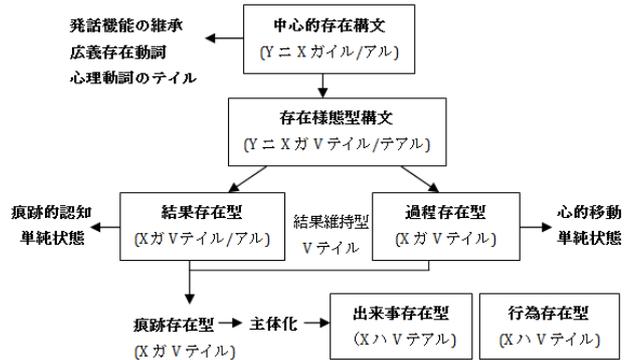


図1 シテアル/シテイル構文のネットワーク
(岡 2013 : 22)

岡(2013)は、中心的存在構文を「空間的场所Yに実体Xが存在する」、「存在様態型構文」を「空間的场所Yに実体Xがある状態で(Vテ)存在する」と規定し、「結果存在型」は、「存在様態型構文が場所の二格と共起せず、Vテという動作様態の意味に焦点がシフトされることによって」拡張され、「行為存在型」は「直接的結果や痕跡もなく出来事と現在の発話が関連付けられている」と説明している。岡(2013)では、アスペクト論の枠組みではアスペクト的意味ではないとされている用法(「存在している」など)を含め、シテイル・シテアル構文が統一的に説明され、シテイル・シテアル構文における概念化者の認知の仕方も説明されている。本稿では、準アスペクト形式の“V有”を存在表現のヴァリエーションだと捉え、岡(2013)のシテアル構文に対する分類と対照しながら、存在論的観点から“V有”構文を考察する。

3. データ

『北語漢語語料庫』(BCC コーパス)と『現代漢語語料庫』(CCL コーパス)から“V有”構文の実例を綿密に分析する。まず、「BCC コーパス」を利用し、“V+有”というキーワードで検索をかけ、最初の200例を抽出した。そのうち、不要な87例を除き¹、残りの113例を分析する。岡(2013)の分類に照らし、“V有”の

¹ 「他们希望有一男孩的欲望越来越强烈」などの“V+有”というパターンを有するが、“V有”構文ではない。

分布状況を次の表1にまとめた。

表1 “V有” 構文の使用分布状況

	存在 様態	結果 存在	行為 存在	その 他	計
V有 %	66 58%	0 0%	14 12%	33 29%	113 99%

表1で示されているように，“V有” 構文において、「存在様態型構文」の数が一番多く（58%），全体の半分以上を占めている。これは日本語のシテアル構文と同様である²。しかし，“V有” 構文には「結果存在型」が存在しないことが分かった。具体的に各意味用法の特徴は以下のようなものである。

存在様態型構文 [L(Location)+V有+NP2] :

- (2) 这艘 豪华 客轮……
この 豪華な フェリー
共 設 有 100 间 豪华套房。(BCC)
全部 設置する ある 100 豪華な客室
直訳：この豪華なフェリーには100室の豪華な客室が設置してある。

文(2)において、場所格が必須となり，“有”は本動詞としての機能がほとんど残っている。動詞Vは存在の様態を規定するものである。これは文(3)，(4)のような存在様態を表すシテアル構文とかなり似ている。

- (3) 机の上に本が置いてある。(岡2013:21)
(4) 冷蔵庫にビールが冷やしてある。(益岡1997:190)

行為存在型 [P(Person)+V有+NP2] :

- (5) 他 已经 藏 有 书法家 林佶 手写
彼 既に 保存する ある 書道家 人の名前 書く
汪琬 的 《尧峰文抄》。(BCC)
人の名前 の 作品の名前
直訳：彼は既に書道家林佶が書いた汪琬の『尧峰文抄』を保存してある。

文(5)は人称名詞が主格に立ち，“有”は本動詞の意味が薄まれ，“了”のようなアスペクト的用法になっている。一般に場所格とは共起できず、「話者の態度、判断、主張といった主体的なもの(岡2013:31)」

によって基準時と先行事態と関連づけられるという点においてはシテアル構文のパーフェクト用法に似ている。

- (6) 論文は完全に仕上げてある。これで試問は大丈夫だろう。(岡2013:22)

加えて、表1の中で、「その他」に分類された例文について分析すると、主に「中間的存在」と「単純状態」といった二つの下位分類をすることができる。

中間的存在 :

- (7) 中心 备 有 专用冷柜
センター 配置する ある 専用 冷蔵庫
存放 奶制品。(BCC)
保存する 牛乳製品
直訳1：センターに牛乳製品を保存する専用の冷蔵庫が配置してある。
直訳2：センターは牛乳製品を保存する専用の冷蔵庫を配置してある。

文(7)は主格に立つNP1は集団名詞である。NP1を場所と捉えれば、「存在様態型構文」に近く、NP1を意図性のある動作主と捉えれば、「行為存在型」に近い。具体的には文脈の判断によるものが大きいと考えられる。

単純状態 :

- (8) 科学消費中 包含 有 “绿色消费”。(BCC)
科学的消費の中 含む ある エコ消費
直訳：科学的消費には「エコ消費」を含んでいる。

文(8)は眼前の対象の存在を表すのではなく、NP1とNP2との恒常的な関係性を述べている。対象の実際の存在様態が観察されないが、「绿色消費」が「科学消費」に含まれているように描かれている。「存在様態型構文」の拡張だと考えられる。日本語では、「単純状態」を表すのはシテアル構文ではなく、シテイル構文である(岡2013)。

- (9) 幽霊は存在している。(岡2013:31)
(10) 道が曲がっている。(岡2013:34)

4. 考察

4.1 存在様態型構文

「存在様態型構文」は「L(Location)+V有+NP」という構造をもち，“有”が中心的な働きをなし、動詞V

² 李2007:18を参照されたい。

が二次的なものである。この場合、NP1が典型的な場所名詞であり、動作主が完全に背景化され、話し手の関心が目の前の対象にある。構文全体として、対象存在が強調されるとともに、存在の様態が二次的に説明されている。「存在様態型構文」は中心的存在構文に近似していると考えられる。その理由として、次の2点が挙げられる。

まず、日本語のシテアル構文と同様に、場所格の出現は動詞ではなく、“有”が要求するものである。例文(11)のように、動詞“疊(畳む)”が可能であるのに関わらず文として成立し、意味も殆ど変わらない。しかし、“有”を省略すれば、文として不自然である。

- (11)a. 壁橱里 疊 有 被子。 (作例)
 押し入れの中 畳む ある 布団
 直訳:押し入れに布団が畳んである。
 b. 壁橱里 (有 / *疊) 被子。
 直訳:押し入れに布団がある。

もう一つの理由は、存在様態を表す“V有”構文は“V了”/“V着”構文に置き換えられるが、意味が異なる。“V了”“V着”はそれぞれ「対象の変化」と「存在状態の持続」を表すが、“V有”は「存在の様態」を強調している。この点について、持続を表す副詞“一直”と状況変化を表す副詞“已经”は「存在様態型構文」に用いられないという点から説明できる(王2011:26)。つまり、例文(12)の“V有”構造において、“有”が中心的なものであり、“写(書く)”は二次的なものである。

- (12) 上面 (*一直/*已经) 写 有 醒目的
 上 ずっと 既に 書くある 目立つの
 大字—— 欢迎来到我的家乡。(王2011:26)
 大きな字 ようこそわが故郷へ
 直訳:上に大きな字が書いてある——ようこそわが故郷へ。

4.2 行為存在型

「行為存在型」は「P(Person)+V有+NP2」という基本構造をもち、動詞Vが中心となり、“有”がアスペクト助詞“了”に近い機能を果たしていると考えられる。この場合、存在場所が典型的な場所名詞から人を表すなどの周辺の場所名詞になる。それに加え、具体的な対象の存在ではなく、行為・出来事の内容という意味を表す。よって、「存在様態型構文」からの拡張だと考えられる。石(2004)は“有”がパーフェクトの意味を表す時、「过去某一时刻发生的动作(過去に行われたある動作)」と「具有现时的相关性(現時点との関連性)」という認知基底が存在すると述べている。この場合、動

作主の顕在化により、何かの動作・行為による結果を表すと同時に、先行した動作・行為が積極的に関連づけられた³。いわゆるアスペクト的用法である。「話者の態度、判断、主張といった主体的なもの(岡2013:31)」によって結果と出来事と関連づけられている。

- (13) 上善 说:“我 已经 替 村部
 人の名前 言う 私 既に かわり 村の委員会
 (墊有/?墊 /*有) 二千元 了 啦” (CCL)
 立て替えてある 二千元 変化 モダリティ
 直訳:「私は既に村の委員会の代りに二千元を立て替えてたよ」と上善が言った。

文(13)のように、動詞“墊(立て替える)”を省いた文は成立しない。また、文(13)は対象の変化を表す副詞“已经(既に)”とが共起できることから、「行為存在型」の“V有”構文は“V了”に近い。つまり、存在の意味よりも、対象の変化が読み取られる。

4.3 中間的存在

ところで、「存在様態型構文」と「行為存在型」の中間的存在として、NP1が団体や組織を表す名詞句の場合がある。例えば、文(14)において、もし“民族学校”が建物の存在場所と考えれば、“古書整理と研究機構”の存在の在り方が描かれている(訳1)。もし“民族学校”が人々の集まりの組織だと考えれば、「存在様態型構文」より存在の意味が薄く、動作・行為の結果として、建物がある場所に残されたという「行為存在型」になる(訳2)。つまり、このタイプは中間的存在だと考えられる。

- (14) 民族院校 也 建 有
 民族学校 も 建てる ある
 古籍整理与研究机构。 (CCL)
 古書整理と研究の機構
 直訳1:民族学校にも古書整理と研究の機構が建ててある。
 直訳2:民族学校も古書整理と研究の機構を建てている。

4.4 単純状態型

一部分動詞が“有”と組み合わせると、単なる状態を表す場合がある。例えば、“持有”“帶有”は“有”の意味とほぼ同じで、単なる状態を表している。その中、既に語彙化されているものもある(“含有”など)。例文(15)では、具体的な対象の存在の様態が観察さ

³ 副島(2007)はパーフェクトを判断する時に、上下の文脈の他に「動作主の顕在化」、「動きの時点を明示」、「動きの量を規定」などの構文的特徴が見られると述べている。

れないが、「绿色消費」が「科学消費」の中に含まれているという存在の在り方というイメージが喚起される。

- (15) 科学消費中 包含 有 “绿色消費”。(BCC)
 科学的消費の中 含む ある エコ消費
 直訳:科学的消費には「エコ消費」を含んでいる。

4.5 結果存在型は存在しない

日本語のシテアル構文については、「窓が開けてある」のように、対象が主格の位置に立ち、動作主が背景化され、動作・行為の結果を表す用法として多く使われるが、“V有”構文においては、シテアル構文のような「結果存在型」が存在しない。

- (16) *窓 開 有。
 窓 開ける ある

その理由として、次のように考えられる。“V有”構文において、「単純状態」を表す“V有”を除き、用いられる動詞Vは全て他動性の高い動詞である。“V有”構文には常に物や人の位置変化又は出現という意味が含まれている。文(1b)のように、「机と椅子」がある所から「窓際」に移動されたという物理的な位置変化が見られる。また、文(12)のように、元々看板に文字がない状態[0]から文字がある状態[1]までに変わり、出現の意味が含意されている。それゆえ、“V有”構文のNP1に常に対象の位置変化や出現の典型的場所又は非典型的場所が求められ、対象の出現が抑制されている。この点からも“V有”は“V了”と“V着”より文法化の度合いが低いと言えよう。本稿では、羅・范(2006)の観点に賛成し、“V有”を準アスペクト助詞と位置付ける。

5. おわりに

結論として、日本語のシテアル構文と同様に、中国語の“V有”構文も多義性を有する。“V有”構文はシテアル構文と同様に、「机に本が置いてある」のような「存在様態型構文」が存在する。場所格が必須となるといった構文的特徴を有する。全体の意味用法の半分以上を占めている。しかし、シテアル構文に対し、“V有”構文は「窓が開けてある」のような「結果存在型」を有しない。一方、シテアル構文には「単純状態」の意味がなく、一般にシテアル構文が「単純状態」を表す。それに対し、中国語では、“V有”構文が「単純状態」を表すこともできる(表2)。

表2 シテアル構文と“V有”構文との対照

	シテアル構文	“V有”構文
存在様態型構文	○	○
行為存在型	○	○
結果存在型	○	×
単純状態	×	○

加えて、“V有”構文のアスペクトの用法が「存在様態型構文」を経て中心的存在構文から拡張されたことを確認した。本稿で検討してきた“V有”構文の各用法間は図2のようなネットワークをなしていると考えられる。

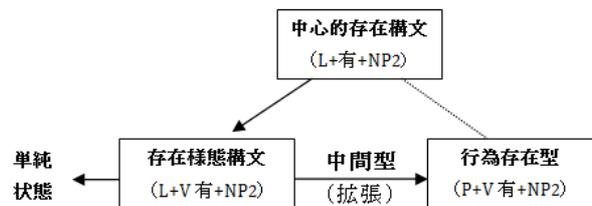


図2 “V有”構文のネットワーク

今後の課題として、“V了”構文、“V着”構文も視点に入れ、シテアル構文との対照を通し、“V了”構文、“V着”構文と“V有”構文を体系的に考察する予定である。

参考文献:

岡智之(2001)「テイル(テアル)構文の認知言語学的分析—存在論的観点に基づくアスペクト論の展開—」『日本認知言語学会論文集』1: pp. 132-142.
 ——(2013)「日本語存在表現の文法化」『認知歴史言語学』(山梨正明他編)くろしお出版: pp. 3-38.
 副島健作(2007)『日本語のアスペクト体系の研究』ひつじ書房.
 益岡隆志(1997)『複文』くろしお出版
 李京保(2007)『「~テアル」文の構造及び意味用法』『東京外国語大学日本研究教育年報』11: pp. 1-19.
 罗建邦・范美群(2006)「从三个平面看“V有”和“V了”之差异」『江西科技师范学院学报』3: pp. 92-95.
 石毓智(2004)「汉语领有动词与完成体的表达」『语言研究』24, pp. 34-42.
 孫宏林(1996)「由“V+有”构成的存在句」『世界漢語教学』36: 21-29.
 王静(2011)「“NP1+V+有+NP2”类存在句研究」修士論文、復旦大学.
 鄭汀(2011)「汉日存在句V着与V再考」『外语研究』5: pp. 64-69.
 コーパス:
 北京日本学研究中心編(2003)『中日対訳コーパス』北語漢語語料庫(北京語言大学) <http://bcc.bjcu.edu.cn/>
 現代漢語語料庫(北京大学中国言語学研究中心) http://cc1.pku.edu.cn:8080/cc1_corpus/